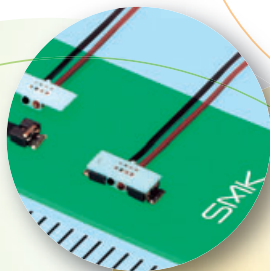
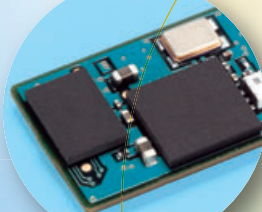


株主・投資家のみなさまへ



第88期
中間経営報告書

2009年4月1日から
2009年9月30日まで



SMK株式会社

「雌伏」と「変革」 —変化への対応力強化—



● 企業理念

SMKは可能性の追求を通して総合的な高度技術により、情報社会の発展に寄与する。

● SMK「行動指針」

1. 社会への貢献を考え、誇りと自信をもって行動する。
2. ユーザーの立場を考え、熱意と誠意をもって行動する。
3. 高い目標を考え、失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
4. 明るい社風づくりを考え、信頼と尊重をもって行動する。
5. 世界の中のSMKを考え、国際的視野をもって行動する。

●●● Contents

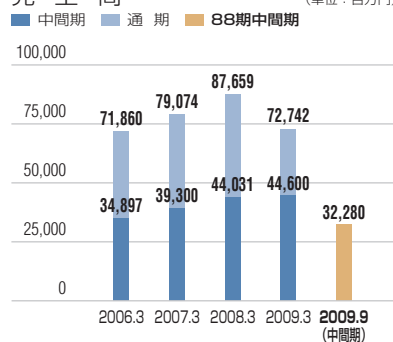
中間財務ハイライト(連結)	2
トップメッセージ	3
市場別の概況(連結)	5
新製品ご紹介	7
TOPICS	9
事業所のご紹介	10
中間決算概要(連結)	11
株式の状況	13
コーポレートデータ	14

●● 中間財務ハイライト (連結)

	第84期 2006.3	第85期 2007.3	第86期 2008.3	第87期 2009.3	第87期 (中間期) 2008.9	第88期 (当中間期) 2009.9
売上高 (百万円)	71,860	79,074	87,659	72,742	44,600	32,280
経常利益 (百万円)	5,512	6,190	4,327	1,029	3,165	1,282
当期純利益 (百万円)	3,473	3,693	2,094	△1,620	1,710	940
1株当たり当期純利益 (円)	44.33	47.48	27.32	△21.68	22.76	12.72
総資産額 (百万円)	61,344	65,575	66,737	58,168	68,892	56,930
純資産額 (百万円)	32,730	34,564	32,386	29,079	33,345	29,703

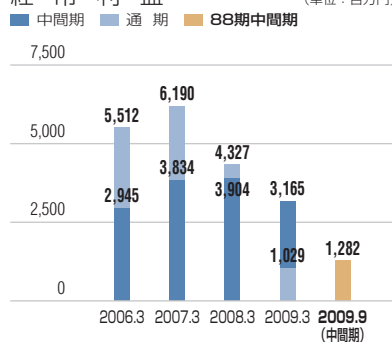
売上高

(単位: 百万円)



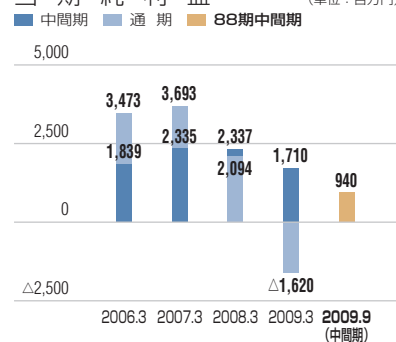
経常利益

(単位: 百万円)



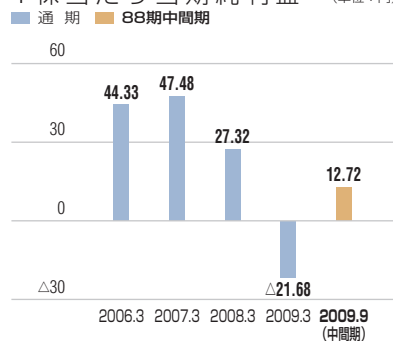
当期純利益

(単位: 百万円)



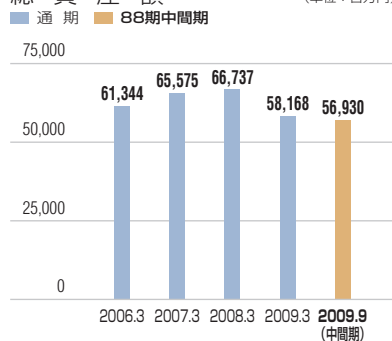
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



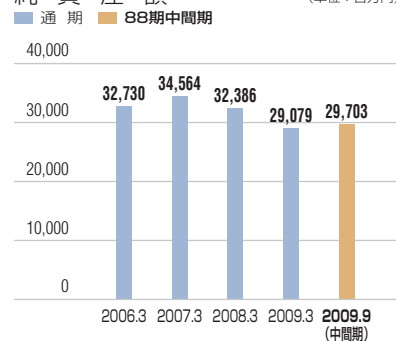
総資産額

(単位: 百万円)



純資産額

(単位: 百万円)





代表取締役社長

中村 哲也

当中間期の概況

当中間期における世界経済は、世界同時不況の打開に向けた主要国による景気刺激策の後押しもあり、全体としては底を脱しつつありますが、先行きは不透明で楽観を許さない状況が続いております。

日本経済を取り巻く環境も、消費マインドの停滞や、ドル安・円高傾向が景気を下ぶれさせる可能性を残しており、先行きの不透明感は払拭できない状況にあります。

当エレクトロニクス業界は、世界同時不況による急激な需要減と生産調整の状況から抜け出し、全体としては緩やかな回復傾向にあります。力強い回復基調となるには相当の時間が必要と思われます。

このような状況のもと、当社グループの中間期における連結業績は前年同期比で減収減益となりましたが、積極的な新製品の投入、価格競争力の向上、固定費の削減等に努力した結果、売上高は前年同期比7割程度の回復となり、営業利益は8割まで回復いたしました。今後につきましては、加速する市場ニーズの変化に柔軟に対応し、市場競争力の強化に製販一体となって取り組むとともに安定して利益の出せる体質強化を図る所存です。

経営課題に対する取り組み

当社は今期の経営課題として、「SMKブランド力の向上」、「品質改善（Zero Defect運動）」、「ものづくりへの再チャレンジ」の3つに引き続き注力してまいります。「品質改善」におきましては、製品だけでなく、経営、営業、開発、管理などの事業すべての面における「Zero Defect＝絶対品質」を追求し、企業競争力の強化につなげていきたいと考えております。

また「世界同時不況に生き残る強固な企業体質の確立」を基本方針として掲げ、徹底的なコスト構造の見直し、市場ニーズにマッチした拡販・開発・品質・生産技術力の強化を図っております。ロス（ムダ・ムラ・ムリ）の徹底した排除を進めながら、「明日の種」となる技術・商品開発に対しては今後も積極的に投資をしてまいります。

環境に対する取り組み

当社は「地球環境との共存」を企業の責務と考え、重要な経営課題として位置付けております。人類共通の課題である地球温暖化防止に向けて温暖化ガス削減に真摯に取り組み、かつRoHS指令に

代表される諸規制への対応も強化してまいります。

また、地球環境に配慮した設計思想の推進・展開、環境市場における新しいビジネスチャンスの具現化にも注力し、地球環境保全のための取り組みを幅広く展開してまいります。

当社を取り巻く市場環境は引き続き厳しいものと予想されますが、こういった状況を「変革へのチャンス」と捉え、企業価値および業績の向上のため全社一丸となって邁進する所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年11月

代表取締役社長

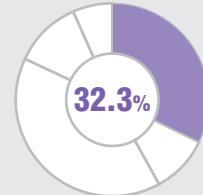
中村哲也

●●市場別の概況(連結) (2009年4月1日～2009年9月30日)

AV分野

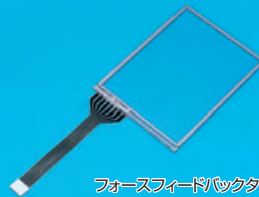


HDMI規格 タイプA レセプタクル

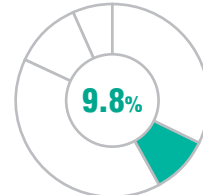


映像・音響部品：104億2千4百万円

電装分野



フォースフィードバックタッチパネル

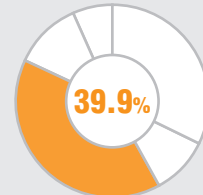


電装部品：31億6千6百万円

通信分野

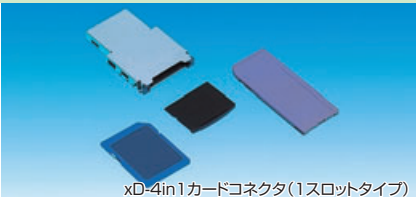


ステレオイヤホンマイク、Bluetoothユニット

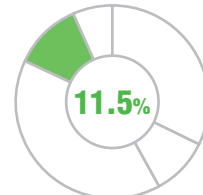


通信部品：128億6千万円

情報分野



xD-4in1カードコネクタ(1スロットタイプ)

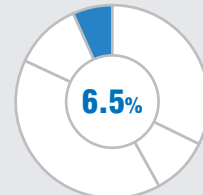


情報事務機部品：37億1千8百万円

家電分野



PLC用DS-SS変復調エンジン

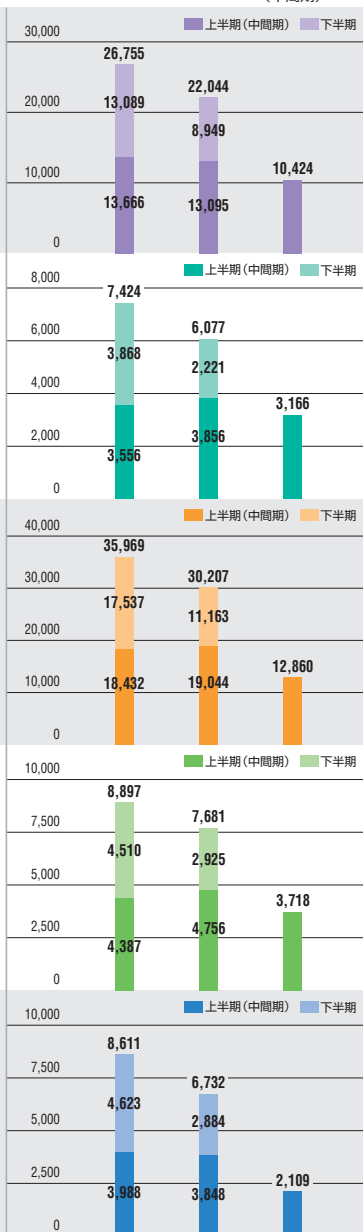


電子玩具・家電、その他部品：21億9百万円

(各年度の通期は3月末、中間期は前年の9月末)

売上高 (単位: 百万円)

第86期/2008 第87期/2009 第88期/2010
(中間期)



薄型テレビの国内需要が好調に推移したことで、リモコン、コネクタの売上が貢献したものの、海外において、セットトップボックス向け部品、音響機器向け部品等の売上が低迷したため苦戦いたしました。今後は、AV機器のネットワーク化、環境対応等の新しい市場ニーズに対応した新製品の開発を強力に推進してまいります。

国内市場においては、ETC車載器の需要が増大したことで、コネクタの売上が貢献しましたが、世界的な自動車販売台数の減少によって、リモコン、マイクユニットなどのカーナビ/カーオーディオ用部品の売上が伸び悩みました。今後は、新しい顧客ニーズにいち早く応えられるよう、操作用タッチパネルをはじめ、車載用コネクタなどの商品開発に注力してまいります。

携帯電話機市場は、市況を反映して、海外大手メーカーの大幅な生産減少が影響したため苦戦いたしました。一方でスマートフォン向けのスイッチ、コネクタ、タッチパネルなどの売上は拡大いたしました。引き続き、携帯電話の高機能化を実現する操作系部品、内部部品などの新製品開発を積極的に行ってまいります。

電子辞書用タッチパネルやデータ用通信カード向けコネクタが売上が牽引しましたが、ノートパソコン向け部品をはじめ、コピー機、プロジェクターなどの事務機器向け部品の需要が減少したことで、前年に対して売上が低迷いたしました。今後も、新しい市場の動きに対応する新製品開発を積極的に進め、売上貢献を目指してまいります。

TVゲーム機向けコネクタ、エアコン・シャワートイレなど家電・住宅設備向けリモコンが日本、米国、欧州での需要落ち込みの影響を受け、低調に推移いたしました。今後は、太陽電池やLED照明など新エネルギー・エコ製品分野への新製品開発および得意先様への提案活動を強化してまいります。

2極 電線対基板圧接コネクタ レパートリー充実

当社は、携帯電話などの小型携帯機器向けに、2極電線対基板圧接コネクタ「ID-01シリーズ」、「ID-02シリーズ」を開発し、発売を開始しました。

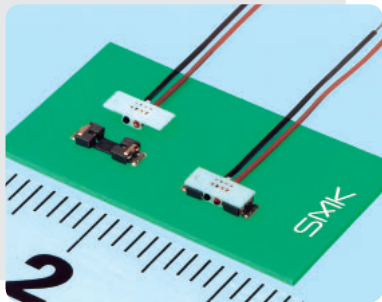
近年、携帯電話などの小型携帯機器の小型・薄型・多機能化により、内部に使われるコネクタにも小型・低背化の要求が高まっています。マイクやスピーカー、パイプレーターなどとメイン基板をつなぐコネクタには、基板占有面積が小さく、配線の仕様変更に対応できる、ケーブル接続タイプのコネクタが求められています。

当社では、こうした要求に対応し、圧接方式でケーブル接続タイプの本製品を開発しました。レセプタクルとプラグの嵌合高さは、業界で最も低い0.9mm (ID-02シリーズ)、1.2mm (ID-01シリーズ)です。低背・小型タイプで、携帯機器のさらなる薄型・小型化に貢献します。

また、耐振動や落下衝撃に強い構造になっており、コネクタとして重要な高い接触信頼性を実現し、低背・小型タイプでありながら充実した機能を備えています。

2極電線対基板圧接コネクタ ID-02シリーズ

用途：
携帯電話などの
小型携帯機器



Windows® 7対応 赤外線リモコン送受信ユニットを開発

マイクロソフト社の新しいオペレーティングシステム「Windows® 7」を搭載したパソコン用に「赤外線リモコン送受信ユニット」《赤外線リモコン（送信機）、USBトランシーバー（送受信機）、USBレシーバー（受信機）、IRブラスター（送信部付延長ケーブル）》を開発しました。2009年8月より、パソコンおよび周辺機器メーカー各社に向けた、受注活動を開始しました。

赤外線リモコン（送信機）の主な特長は、メニューのスタートボタンとして頻繁に使用される、マイクロソフト社指定の「Windows® 7 メディアセンター機能起動ボタン」を搭載しており、ユーザーはTV、ビデオ、DVDなどの操作を容易に切替えることができる点です。

また、プロトコル（赤外線フォーマット）には以前より使用しておりますRC6に加え、当社にて開発しマイクロソフト社より認定を受けました「Quattro Pulse」の使用が可能となりました。

USBトランシーバーには、家庭で既に使用されているリモコンの信号をパソコン側に記憶する学習機能があります。ユーザーは必要な時にその信号を呼び出し、IRブラスターを経由してセットトップボックスなどの家庭内にある他の機器をWindows® 7 パソコンから制御することも可能となります。

Windows® 7対応赤外線リモコン送受信ユニット

用途：
Windows® 7 PCs
およびその周辺
機器



純正仕様フィルム+ガラスタッチパネル を販売開始

車載純正仕様のフィルム+ガラス高透過低反射タッチパネルの受注活動を開始しました。

車載用途、特にライン純正仕様のタッチパネルには高い耐熱性が求められるため、ガラス+ガラスタッチパネルが採用されています。そのため、廉価でありながら高い耐熱性のあるフィルム+ガラスタッチパネルの製品化が市場から強く望まれていました。

新製品はフィルム+ガラス構成はそのままに、構造を改良することにより耐熱性を上げ、ライン純正用途にも対応が可能となりました。

また、外光の反射によってディスプレイが読みにくくなるのを避けるため、従来は「偏光板」を使用していましたが、新製品は、偏光板を使用せずフィルムおよびガラスの透過率、反射率を改良することにより、偏光板を使用したタイプと同レベルの反射率7%まで改善することができました。

透過率は、偏光板を使用したガラス+ガラスタッチパネルの75%と比べ、87%と10%以上向上しています。

今後は、搭載モデルが増えるタッチパネル付きライン純正カーナビゲーションに、廉価なフィルム+ガラスタッチパネルの搭載が急速に進むことが予想され需要拡大が期待されています。

本製品は、フィリピン工場で月産10万台を生産していく計画です。

純正仕様フィルム+ガラスタッチパネル

用途：
カーナビゲーション



Ver2.1+EDR準拠 Bluetooth® シリアル ポートアダプタ BT304シリーズを開発

シリアル無線通信、並びにダイアルアップ接続に最適な「Bluetooth® シリアルポートアダプタ BT304シリーズ」を開発しました。

Bluetooth® 無線技術は、世界中で使用可能な近距離無線通信規格として、様々な機器同士の通信に使用されています。当社は以前より、Bluetooth® 無線技術を使用し、シリアルケーブルの置換えに特化したシリアルポートアダプタを商品化してまいりました。近年は、これらの製品に対して携帯電話を介したダイアルアップ接続機能にも対応するよう求められています。

当社は、こうしたニーズに応えるべく、「Bluetooth® シリアルポートアダプタ BT304シリーズ」を開発しました。

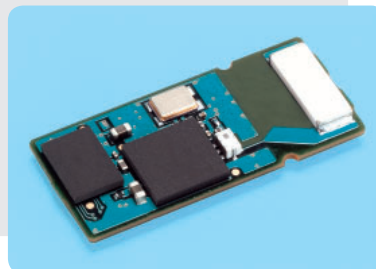
BT304シリーズは、更にVersion 2.1+EDRにも準拠し、機器同士の接続を簡略化するセキュア・シンプル・ペアリング (SSP) 機能をサポートしています。

当社では、今後も様々な用途に対応したBluetooth® モジュールを開発し、事業を拡大してまいります。

(注) Bluetooth® は、Bluetooth® SIG, Inc.の登録商標であり、SMKはライセンスに基づきこれらの商標を使用しています。

Bluetooth® シリアルポートアダプタ BT304シリーズ

用途：
ハンディターミナル
バーコードリーダー
計測機器
車載機器他



CEATEC JAPAN 2009に出展

当社は、10月6日～10日に幕張メッセ（千葉）で開催された世界最先端のIT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2009」に出展いたしました。

「見て、触って、体験していただくブース」をコンセプトに、当社製品に触れてその感触を体感していただけるよう工夫を凝らし、各種タッチパネル・リモコンを中心としたデモンストレーション展示を行いました。

中でも、今回が初めての展示となった2段階入力フォースフィードバックタッチパネルの体験デモンストレーションは、お客様の注目を集めました。画面を見なくても指に伝わる多彩な振動からキー選択が可能となり、カーナビゲーションの操作画面など今後の需要拡大が期待される場所です。また、SMKブランド製品として一般消費者向けに販売しておりますプレゼンテーションリモコンにつきましても、初めての公開となったストップウォッチプレゼンター「プレジエンヌ」をはじめとする製品ラインナップを揃え、ご来場の皆様にアピールいたしました。

5日間で約4,000名の方々にご来場いただき、当社の技術力を製品を通じて体感していただくことができました。



2段階入力
フォースフィードバック
タッチパネル展示



プレゼンテーション
リモコン展示



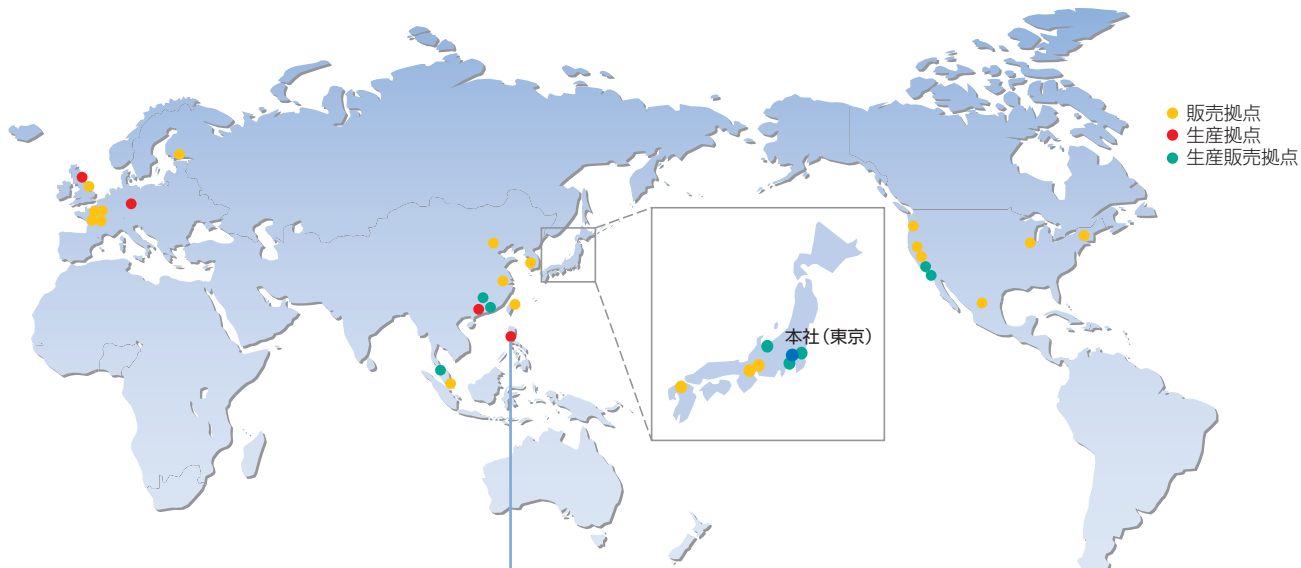
COMPUTEX TAIPEI 2009に出展

6月2日～6日に台湾・台北市にて開催されたアジア最大のコンピュータ専門展示会「COMPUTEX TAIPEI 2009」に出展いたしました。

当社ブースでは、実際に触っていただけるタッチパネル・リモコンなどのデモンストレーションを中心に、薄型テレビ・カーエレクトロニクス・携帯電話／スマートフォン・パソコンなどの市場別展示を行い、来場者の皆様にSMK製品をアピールいたしました。



●●事業所のご紹介



フィリピン SMK Electronics (Phils.) Corporation



SMK フィリピンは、首都マニラから100kmほど北西の自然豊かな町クラーク(自由貿易地域)で操業しています。

現在は、増産を続けるタッチパネル用設備の増強を、環境への配慮と両立しながら進めています。

ファイナンシャル担当シニアマネージャー：Polintan Ma Victoria



ASIA

SMK High-Tech Taiwan Trading Co., Ltd.
SMK Electronics (H.K.) Ltd.
SMK Trading (H.K.) Ltd.
SMK Dongguan Gaobu Factory
SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.
SMK Electronics Trading (H.K.) Ltd. Shenzhen Office
SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd. Beijing Office
SMK Electronics Int'l Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Singapore Pte. Ltd.
SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
SMK Electronics (Phils.) Corporation
SMK Korea Co., Ltd.

EUROPE

SMK Europe N.V.
SMK Europe N.V., U.K. Branch
SMK Europe N.V., France Branch
SMK Europe N.V., Munich Office
SMK Europe N.V., Dortmund Office
SMK (U.K.) Ltd.
SMK Hungary Kft.
SMK Corporation Helsinki Office

NORTH AMERICA

SMK Electronics Corporation U.S.A.
SMK-Link Electronics Corporation
SMK Electronics Corporation U.S.A., East Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., San Jose Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Los Angeles Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Seattle Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Chicago Office
SMK Mexicana S.R.L. de C.V.
SMK Mexicana S.R.L. de C.V., Mexico City Office
SMK Manufacturing, Inc.
SMK Electronica S.A. de C.V.

●● 中間決算概要 (連結)

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第88期中間期 (2009年9月30日)	第87期 (2009年3月31日)
●資産の部		
流動資産	34,308	34,302
現金及び預金	9,013	9,081
受取手形及び売掛金	16,415	14,864
商品及び製品	2,741	3,254
仕掛品	656	527
原材料及び貯蔵品	2,228	2,453
その他	3,325	4,198
貸倒引当金	△72	△77
固定資産	22,622	23,865
有形固定資産	17,522	18,021
無形固定資産	635	781
のれん	449	573
その他	186	207
投資その他の資産	4,464	5,063
その他	4,727	5,321
貸倒引当金	△262	△258
資産合計	56,930	58,168

(単位：百万円)

科目	第88期中間期 (2009年9月30日)	第87期 (2009年3月31日)
●負債の部		
流動負債	20,102	21,810
支払手形及び買掛金	3,830	2,688
1 短期借入金	6,704	10,527
未払金	7,291	6,501
未払法人税等	77	48
賞与引当金	723	592
その他	1,476	1,451
固定負債	7,124	7,278
長期借入金	6,463	6,366
退職給付引当金	13	12
役員退職慰労引当金	132	390
その他	514	508
負債合計	27,227	29,088
●純資産の部		
株主資本	32,295	31,432
資本金	7,996	7,996
資本剰余金	12,353	12,347
利益剰余金	14,858	13,961
自己株式	△2,913	△2,873
評価・換算差額等	△2,678	△2,421
その他有価証券評価差額金	309	△29
為替換算調整勘定	△2,987	△2,392
新株予約権	86	55
少数株主持分	—	13
純資産合計	29,703	29,079
負債純資産合計	56,930	58,168

POINT 1

設備投資の抑制等で資金収支が改善され、短期借入金が87期に比べて38億2千3百万円減少いたしました。

POINT 2

売上高は、前年同期比7割程度の回復になっておりますが、営業利益は、原価率の改善、徹底した固定費の削減に取り組んでまいりました結果、8割まで回復いたしました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	第88期中間期 (自2009年4月1日 至2009年9月30日)	第87期中間期 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)
2 売上高	32,280	44,600
売上原価	26,771	37,679
売上総利益	5,508	6,920
販売費及び一般管理費	3,864	4,924
2 営業利益	1,643	1,996
営業外収益	710	1,558
受取利息	13	41
受取配当金	24	62
不動産賃貸料	478	445
為替差益	—	859
その他	193	149
営業外費用	1,072	389
支払利息	120	158
不動産賃貸原価	152	140
3 為替差損	745	—
その他	53	91
経常利益	1,282	3,165
特別利益	109	46
固定資産売却益	59	36
償却債権取立益	46	—
その他	3	9
特別損失	137	186
固定資産除却損	106	28
投資有価証券評価損	0	157
その他	30	0
税金等調整前中間純利益	1,253	3,025
法人税、住民税及び事業税	250	1,107
法人税等調整額	61	206
少数株主利益	—	0
中間純利益	940	1,710

POINT 3

87期中間期は為替差益8億5千9百万円を計上いたしましたが、88期中間期はドル安円高により為替差損7億4千5百万円を計上いたしました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

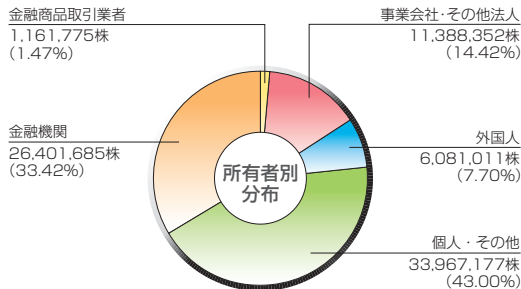
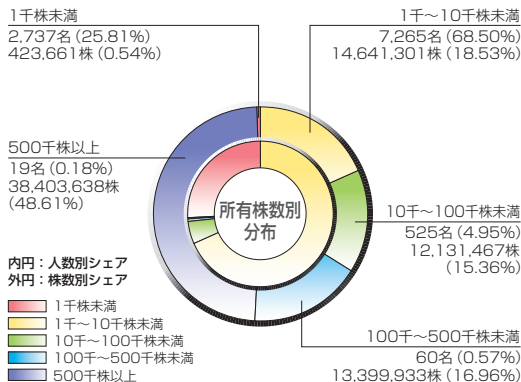
(単位：百万円)

科目	第88期中間期 (自2009年4月1日 至2009年9月30日)	第87期中間期 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,253	3,025
減価償却費	1,859	2,579
のれん償却額	81	90
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△83
退職給付引当金の増減額(△は減少)	0	1
前払年金費用の増減額(△は増加)	102	△424
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△258	△29
受取利息及び受取配当金	△38	△104
支払利息	120	158
固定資産除却損	106	28
売上債権の増減額(△は増加)	△2,248	△1,943
たな卸資産の増減額(△は増加)	365	261
仕入債務の増減額(△は減少)	2,097	△100
未払金の増減額(△は減少)	1,435	—
その他	121	△3
小計	4,999	3,456
利息及び配当金の受取額	39	111
利息の支払額	△124	△168
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	579	△129
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,494	3,270
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	20
有形固定資産の取得による支出	△1,389	△3,180
有形固定資産の売却による収入	160	51
投資有価証券の売却による収入	20	505
貸付けによる支出	△39	△28
貸付金の回収による収入	83	26
その他	5	△108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,160	△2,714
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,699	1,428
長期借入れによる収入	—	1,500
長期借入金返済による支出	△228	△1,738
自己株式の取得による支出	△18	△399
自己株式の売却による収入	2	12
配当金の支払額	△247	△519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,191	284
現金及び現金同等物に係る換算差額	△257	135
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△115	976
現金及び現金同等物の期首残高	9,072	7,073
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	47	134
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,004	8,185

株式の状況 (2009年9月30日現在)

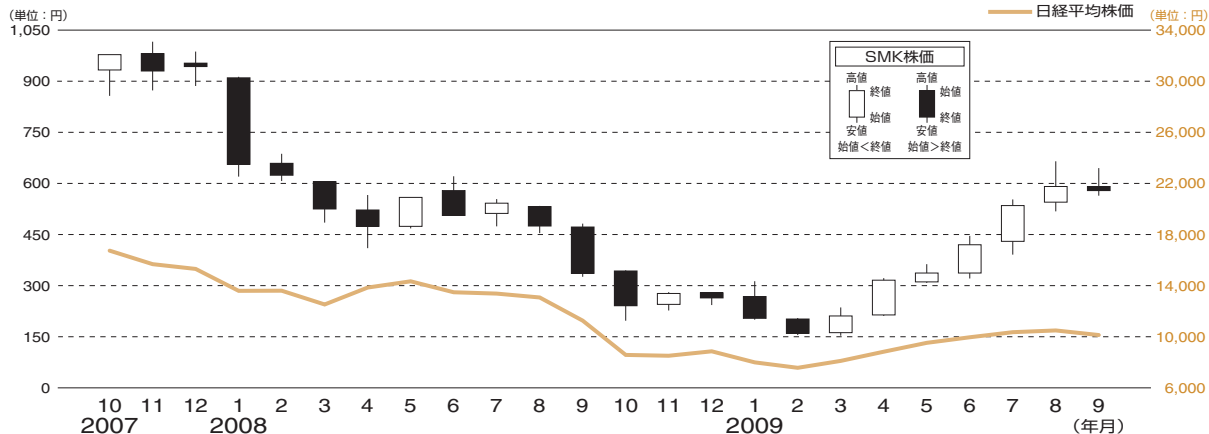
発行可能株式総数…………… 195,961,274株
 発行済株式の総数…………… 79,000,000株
 株主数…………… 10,606名
 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,294	9.23
日本生命保険相互会社	4,001	5.06
株式会社みずほコーポレート銀行	3,663	4.64
大日本印刷株式会社	3,200	4.05
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,134	3.97
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,049	2.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,965	2.49
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,811	2.29
池田彰孝	1,714	2.17
SMK協力業者持株会	1,700	2.15



(注) 1. 当社は自己株式4,961千株を保有しておりますが、上記株主からは除いております。
 2. 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりです。
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 7,294千株
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 1,965千株
 三菱UFJ信託銀行株式会社 112千株

株価チャート【月足】



コーポレートデータ (2009年9月30日現在)

会社概要

- 商 号 SMK株式会社
- 英 文 社 名 SMK Corporation
- 設 立 昭和4年(1929年)1月15日
- 主 たる 事 業 電気、通信および電子機器その他産業機械、
情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
- 資 本 金 7,996,828,021円
- 従業員数(SMKグループ) 13,248名
- 本 社 〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

役員一覧

取締役および監査役

代表取締役社長	中 村 哲 也
代表取締役副社長	池 田 靖 光
取締役専務執行役員	矢 本 哲 士
取締役常務執行役員	山 田 一
取 締 役	棚 橋 祐 治
常 勤 監 査 役	池 田 彰 孝
常 勤 監 査 役	小 林 健 二
監 査 役	小 林 秀 文
監 査 役	杉 原 幸 一 郎
監 査 役	中 島 成

執行役員

常 務 執 行 役 員	入 澤 誠
常 務 執 行 役 員	角 芳 幸
常 務 執 行 役 員	櫻 井 慶 雄
執 行 役 員	松 本 秀 夫
執 行 役 員	歌 崎 晃
執 行 役 員	若 林 幹 雄
執 行 役 員	ポール・エバンス
執 行 役 員	磯 田 勉
執 行 役 員	宮 川 宏

事業所一覧

- ゲートシティオフィス 〒141-0032
東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー18階
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
- 大 阪 支 店 〒535-0021
大阪府大阪市旭区清水4-3-11
TEL (06) 6953-7222 (代)
- 名 古 屋 支 店 〒453-0014
愛知県名古屋市中村区則武1-19-13 KSビル6階
TEL (052) 453-3011 (代)
- 茨 城 営 業 所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2144
- 神 奈 川 営 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0710
- 福 岡 営 業 所 〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3-25-24
八百治ビル6階
TEL (092) 472-7236
- 北 陸 営 業 所 〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1213
- 富山事業所・富山テクノロジセンター
〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1212 (代)
- ひたち事業所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2111 (代)
- 大 和 事 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0711
- やまと流通センター 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-6861
- 海 外 拠 点 台湾・香港・中国・シンガポール・
フィリピン・韓国・マレーシア・
ベルギー・ドイツ・イギリス・フランス・ハンガリー・
フィンランド・アメリカ・メキシコ

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催（年一回）

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会の基準日 3月31日

上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

公告掲載URL <http://www.smk.co.jp/>

ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告とすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場取引所 東京証券取引所（市場第一部）

証券コード 6798

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

TEL 0120-232-711（通話料無料） インターネットアドレス <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

【株式に関するお問合せ先・お手続き先】

株券電子化に伴い、株式に関するお問合せ先および株主様の住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、特別口座から証券会社の口座へのお振替、配当金のお振込等のお手続き窓口は、次のとおりとなります。

1. 証券会社の口座で株式をご所有の株主様：株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
2. 特別口座で株式をご所有の株主様：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（上記株主メモの「株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関」をご参照ください。）

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【単元未満株式（1,000株未満の株式）の買増・買取請求のご案内】

単元未満株式をご所有の株主様は、1,000株に不足する数の株式を当社から買い増し、単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式を時価にて当社にご売却することもできます。なお、当社は、単元未満株式の買増・買取請求にかかる手数料は無料^(注)です。

(注) 証券会社等に支払う取次手数料につきましては、お取引のある証券会社等にお問合せください。

【特別口座から証券会社の口座へのお振替のご案内】

特別口座に記録された株式は売買ができませんので、特別口座から証券会社へのお振替をお奨めいたします。

【配当金のお振込によるお受取りのご案内】

配当金のお振込先をご指定いただけますと、配当金は当社からご指定の口座へ直接お振込みさせていただくことになり、安全かつ確実に配当金をお受け取りいただけます。

ぜひ、この機会に上記お手続きをご検討ください。

SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号

TEL (03) 3785-1111 (大代表) FAX (03) 3785-1878

ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

表紙に掲載されている製品写真は、当社の新製品です。

「新製品ご紹介」（7、8ページ）で詳しくご紹介しております。



本誌は大豆油インキを使用しています